

数 学 A 学習指導案

学年・組	3年8組	教室	3の8教室	日時	6月14日(火) 1限目	指導者	
単元	2章 確率					教科書 (出版社)	新編数学A (東京書籍)
指導計画	1節 確率とその基本性質 ① 確率の意味……………2時間 ② 確率の基本性質……………5時間 (本時はその2時間目) 2節 独立な試行と確率, 期待値 ① 独立な試行の確率……………2時間 ② 反復試行の確率……………2 ③ 期待値……………3						
主題	確率の基本性質と確率の加法定理						
前時の課題	問題集エディノート数学Ap. 16, p. 17の問題を解いてくる。						
本時の目標	確率の基本性質を確認し, 排反事象における確率の加法定理を用いて確率を求めることができるようにする。						
指導過程	学 習 活 動			時間 (分)	指導上の留意事項	評価の方法・規準等	
	指 導 入	1	既習事項を確認する。	3	<ul style="list-style-type: none"> 確率を起こりうる場合の数の比で求めていることを確認する。 場合分けをしながら問題を解くことになることを示唆する。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を正しく理解できているか。(知識・理解) 学習に取り組む姿勢は出来ているか。(関心・意欲・態度) 	
		2	本時の目標を確認する。	2			
	展 開	1	確率の求め方から, 確率の基本性質を確認する。 (1) 任意の事象Aに対して, $P(A) \geq 0$ (2) 全事象Uの確率 $P(U) = 1$ (3) 空事象 ϕ の確率 $P(\phi) = 0$ (4) A, Bが排反事象のとき, $P(A \cup B) = P(A) + P(B)$	20	<ul style="list-style-type: none"> 確率の最大値は1 確率の最小値は0であることを確認する。 2つの事象がA, Bが同時には起こらないことに留意する。 「2個とも赤球」または「2個とも白球」の2つの排反事象の和事象になっていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 記号P(A)を使っているか。(表現・処理) 排反事象になるように場合分けをすることの意義を理解しているか。(数学的な見方や考え方) 	
		2	確率の加法定理を用いて, 教科書 p. 46 例題4の問題を解く。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content;"> 赤球4個と白球6個が入っている袋から, 同時に2個の球を取り出すとき, それらが同じ色である確率を求めよ。 </div>	15			
		3	教科書 p. 46 問10をととき, 理解を深める。	5			<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い, 生徒の理解度を確認する。
	整 理	1	本時のまとめと整理を行う。	3	<ul style="list-style-type: none"> 排反であることの意味を再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を理解できたか。(知識・理解) 	
		2	次時の予告と課題の提示を聞く。	2			
備考	商業科 生徒数 40名 (男子10名, 女子30名)						